



6:1 ある安息日に、イエスが麦畑を歩いておられたとき、弟子たちは麦の穂を摘んで、手でもみ出しては食べていた。

6:2 すると、あるパリサイ人たちが言った。「なぜ、あなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。」

6:3 イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、ダビデが連れの者といっしょにいて、ひもじかったときにしたことを読まなかったのですか。」

6:4 ダビデは神の家にはいって、祭司以外の者はだれも食べてはならない供えのパンを取って、自分も食べたし、供の者にも与えたではありませんか。」

6:5 そして、彼らに言われた。「人の子は、安息日の主です。」

6:6 別の安息日に、イエスは会堂にはいって教えておられた。そこに右手のなえた人がいた。

6:7 そこで律法学者、パリサイ人たちは、イエスが安息日に人を直すかどうか、じっと見ていた。彼を訴える口実を見つけるためであった。

6:8 イエスは彼らの考えをよく知っておられた。それで、手のなえた人に、「立って、真中に出なさい。」と言われた。その人は、起き上がって、そこに立った。

6:9 イエスは人々に言われた。「あなたがたに聞きますが、安息日にしてよいのは、善を行なうことなのか、それとも悪を行なうことなのか。いのちを救うことなのか、それとも失うことなのか、どうですか。」

6:10 そして、みなの方を見回してから、その

人に、「手を伸ばしなさい。」と言われた。そのとおりにすると、彼の手は元どおりになった。

6:11 すると彼らはすっかり分別を失ってしまつて、イエスをどうしてやろうかと話し合った。

安息日の問題が浮上しました。神様を第一にするのが安息日ですが、これを律法として形だけ守って、勤めを果たしたと思つてはなりません。イエス様を主として、人のために愛する思いをささげ、そのようにして神様への礼拝を全うすることです。

「人の子（イエス様）」が安息日の主ですから、イエス様を喜ばせるようにしましょう。その行いをもイエス様にささげましょう。また律法的ではなく、心から進んで、喜びとともに礼拝をささげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

